

## 7. 台湾高砂族住家の研究 (第3報、アタマル族の住家)

文部技官 文部省教育施設部高松工事事務所長 千々岩 助太郎

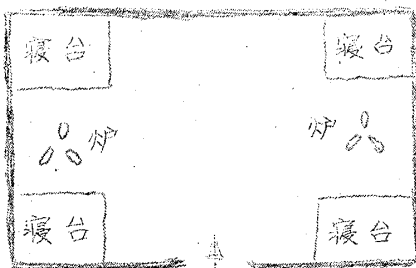
(はしがき) 高砂族とは台湾原住民族の日本的呼称であつて、中華民國に復帰後は高山族と呼ばれてゐる。人口約15万、7種族に分れてゐるが、アタマル族は台湾島北部に占居する大種族であつて、昭和14年末の調査に依れば部族数29、蕃社数168、人口37,648である。

### I. アタマル族の発祥及移動

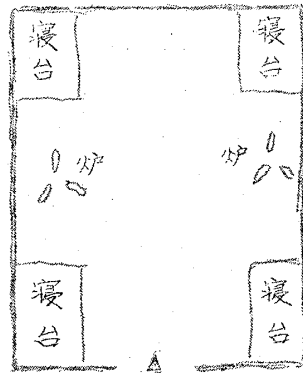
アタマル族の発祥地と称せられてゐる所はピンスブカン、白石山及び大霸尖山であつて、ピンスブカン系統のものは台湾中央山脈と次高山系との溪谷に沿つて東北方台北州下に移動し、白石山系統のものは台湾中央山脈を横断して東方花蓮港序下に移動し、大霸尖山より西方の平地、新竹州下に移動してゐる。

### 2. アタマル族住家の形式

#### 2. 平平型(第1圖)

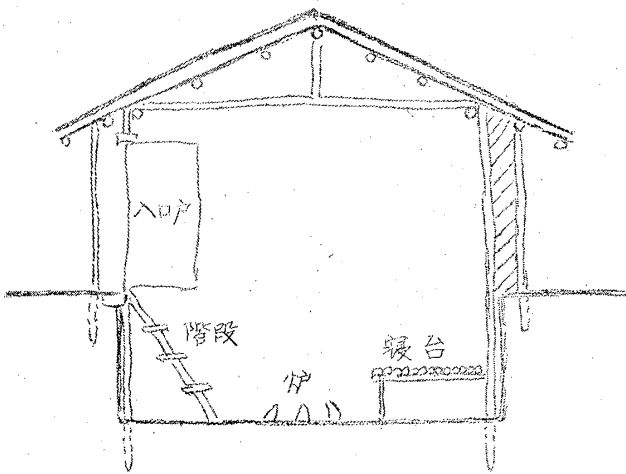


A. 平入口



B. 妻入口

第1圖 アタマル族住家基本平面図



第2圖 アタマル族住家基本断面図(竪穴式)

平面は短形、單室平入のものが多く、稀に複室或いは妻入のものもある。何れも屋内は土間のまゝであつて、その各隅に寝台を配し、その寝台との中間に炉

を2ヶ設け、炉の上には吊棚があり、背面壁に棚を設けてその下を炊事場としてゐる。

#### 6. 生活様式

竪穴式生活(第2圖)のものと然らざるものがある。竪穴式生活のものはピンスブカン系統及び白石山系統に多く、竪穴の深さも亦発祥地周辺に於て最も深くて2mに達

するものもあり、移動するに従つて敷次その深さを減じている。

### 3. アタマル族住家の構造

a 柱 柱は丸太が多く、稀に断面矩形の押角或ひは厚板の如く扁平なものも用いられるが、何れも堀立柱である。

b. 壁 住家の構造に於て地方的に最も特徴のあるものは壁構造であつて之を木材積み重ね式(仮称)、竹壁及び板壁に分けることが出来る。木材積み重ね式壁はアタマル族本来の壁工法であつて、現在に於てはピンスブカン系統の台中州及び台北州下のアタマル族中部地方に於て竪穴式住家に多く見られ、往時は花蓮港庁下の白石山系統の住家にもこの工法が用いられた様である。

c 屋根 屋根は總て切妻であつて屋根葺材料としては天然スレート、松皮、茅及び竹が用いられる。スレート葺は台中州下に多く、松皮葺は台北州下、茅葺は台中、台北両州下及び花蓮港庁下に散在し、竹葺は新竹州下に多い。

d 寝台 居住する家族数に依つて異なるが、屋内の四隅に固定して設けられるのが原則であつて、その構造は束及び根太には小さな丸太を用い、これに小さな丸竹、割竹或いは茅の茎を用いて床が張られる。寝台として用いるばかりでなく日中は腰掛として用いられる。

e 炉 細長い石を3本小羽立に鼎立して下部を埋めたものである。炊事に使用するのみでなく就寝時の暖をとるためにも欠くことのできないものである。

f 棚 炉上の吊棚と壁に造付の棚とがある。吊棚は小さな丸太或ひは竹材を以て簀子式に2段乃至4段に造られ、食物或いは農作物の種子等を載せるもので、造付棚は背面壁に取付けられ、丸太、板或いは竹等を以て3段に工作し、食器等をおいてある。

g. 開口 入口は住家の略中央に一ヶ所あるのが原則で、戸は内開きの頑丈な板戸が多く軸釣である。窓は殆んどなく、あつても極く小さなもので、戸も簡単な開き戸や引戸をつけたものもあるが、全然戸がなく樹皮や竹等で格子状に組み、家畜等の侵入を防ぐ程度のもが多い。

h 棟持柱 台中州下の一地方で棟持柱を使用しているものがある。即ち棟木を支える為に住家の妻壁の外に壁柱と平行に直立して柱が建てられ、これを棟持柱と称している。これに類したものは高砂族ブヌン族の一地方に於ても発見した。

4. アタマル族住家の形式及び構造は大略上記の通りであつて、各部族の発

生及び移動と概ね一致しているが必ずしも一致しない地方もある。蓋し過去数世紀の間には幾度か集合離散が繰返され、其の間隣接する部族相互の間には頻繁なる交渉が持続せられ、文化も亦相交流錯綜して其の結果として、住家に於ても彼我何れとも識別し難い状態に招来した事は極めて自然のことであろう。

著者は現存する住家を主体としてこれを建築学上より次の如く分類し、更にその分布状態によつて4地域に区分したい。

α. 建築学上より見たアタマル族住家の分類

(1) 生活様式による分類

i 竪穴式生活を営む部族の住家 ii 地平式生活を営む部族の住家

(2) 構造材料に依る分類

i 木材を主要材料として構造せる住家

ii 竹材を主要材料として構造せる住家

(3) 屋根の形状に依る分類

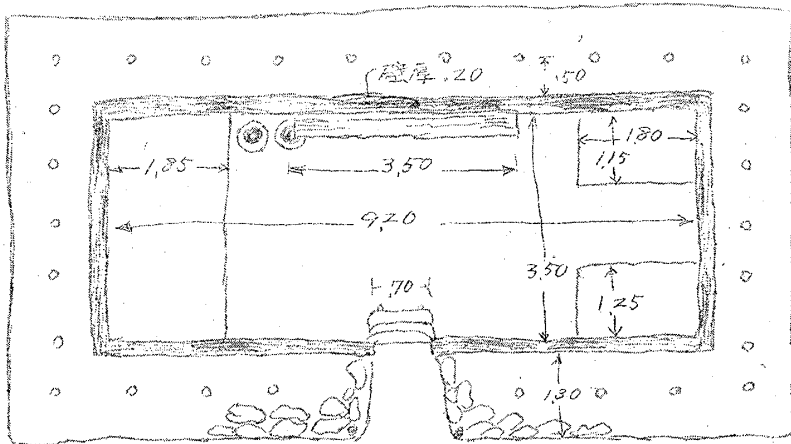
i 切妻屋根を有する住家(直線型) ii 藩斜屋根を有する住家(曲線型)

β 地域に依る分類

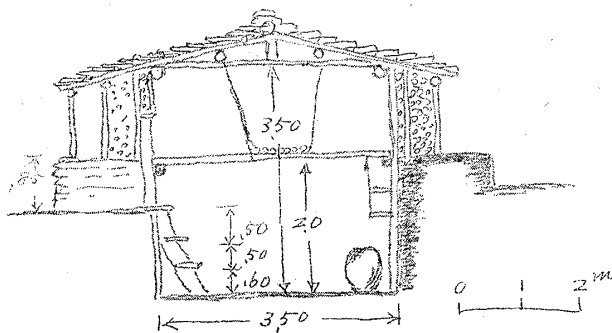
(1) アタマル族中部地方の住家

アタマル族住家の根幹をなすもので、台中、台北両州下の大部分の住家で主として竪穴式、平入、單室の木造家屋で、屋根は直線型、スレート葺、桧皮葺等がある。

实例 台中州能高郡パーラン社ピホ・ノーミンの住家(第3、4図)



第3図 平面図(パーラン社)

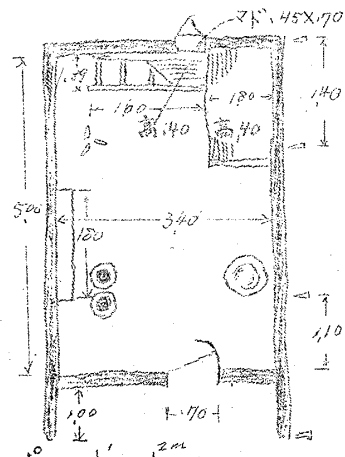


第4図 断面図(パーラン社)

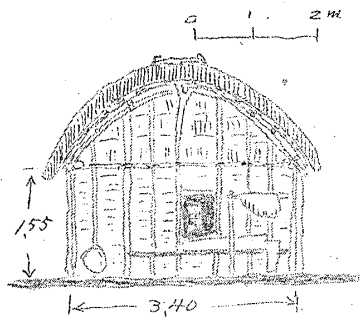
(2) アタマル族西部地方の住家

台中州バイバラ蕃の住家で、地平式、妻入、單室の木造家屋で、屋根は曲線型茅葺である。

实例 台中州能高郡バイバラ社、ユーミン、パワンの住家(第5、6図)



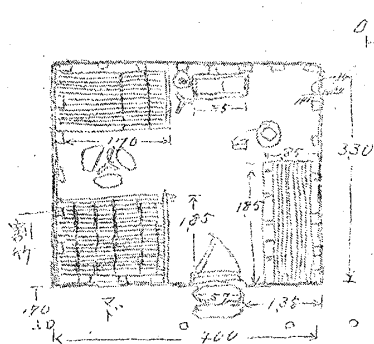
第5図 平面図(バイバラ社)



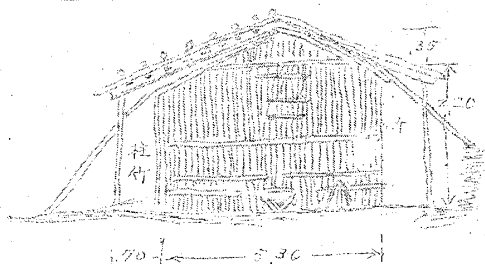
第6図 断面図 (バイラ社)

(3) アタマル族東部地方の住家  
花蓮港下りの住家で、地平式、平入、單室の木造家屋で、屋根は直線型茅葺である。

実例 花蓮港下り花蓮郡ボクスイ社  
ピサ、ソーミンの住家 (第7,8図)



第7図 平面図 (ボクスイ社)

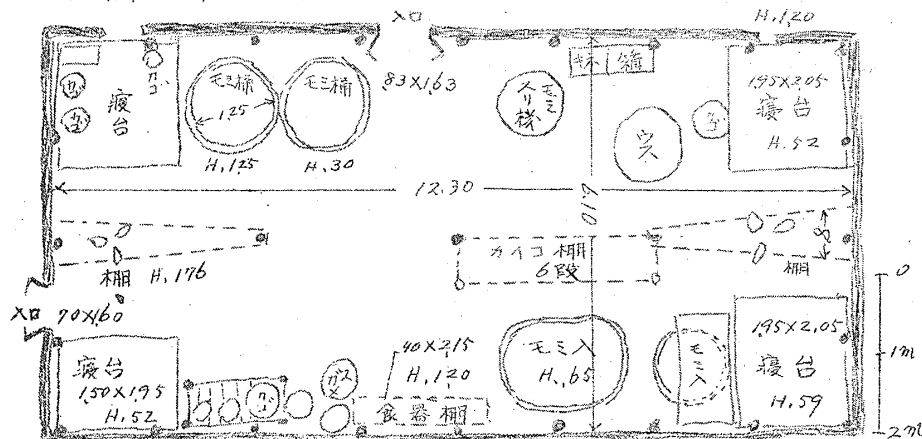


第8図 断面図 (ボクスイ社)

(4) アタマル族西北部地方の住家

新竹州下の全部及台中、台北西州下の一部住家で、地平式、平入、單室の竹造家屋で、屋根は直線型竹葺である。稀に複式或いは妻入もあるが、之は隣接する漢民族の影響を受けたもので、高砂族本来のものではない。

実例 新竹州竹東郡メカラ社バウナイ・パーヤンの住家 (第9,10図)



第9図 平面図 (メカラ社)

### 5. 附属構造物

住家の附属構造物として現存するものには穀倉、豚舎、鶏舎等があり、穀倉は高床式、鶏舎も亦高床式のものがあり、構造及材料等は住家と全く同様である。往時は獸骨架、望楼及び首棚等もあったが現存するものはない。(1950.6.30)